

2025年開催「TICAD9」（アフリカ開発会議）神戸招致を望む 3,900名の署名を神戸市・市会に提出

アフリカミーツ関西実行委員会（所在：芦屋市 代表：センダ・ルクムエナ）（協力：神戸情報大学院大学（所在：神戸市中央区 学長：炭谷俊樹））は、2022年7月15日（金）、合計3,900名（デジタル版2,391名、手書き1,509名）の署名を神戸市市長室、神戸市会へ提出しました。

この活動は2025年に予定されているTICAD9（TICAD8は今年8月にチュニジアで開催予定）の開催地として神戸市に招致しようと同委員会が同大学院協力の下、2022年5月より署名活動を開始し、短期間にも関わらず、兵庫県神戸市での開催を望む声が全国から非常に多く集まったことを受け、この度提出の運びとなりました。

当日は、神戸市市長室の増田匡市長室長、神戸市会の坊池正副議長、日本・ルワンダ友好神戸市会議員連盟の守屋隆司会長をはじめ連盟議員へ署名提出を行いました。増田匡市長室長は、「非常に想いの詰まった署名だと思う。市長に必ず届けたい。」とのコメントがありました。

同委員会の代表であるセンダ・ルクムエナ氏は「関西万博と開催年が同時となったTICAD9を神戸市に招致し、2025年には真の意味で大阪・関西、そして神戸を日本の新たな成長の起点として世界に発信したい。」との意気込みを語っています。

ぜひご取材のご検討を宜しくお願い致します。



神戸市市長室 増田匡市長室長へ署名を手渡すセンダ氏



神戸市会 坊池正副議長へ署名を手渡すセンダ氏

■アフリカミーツ関西実行委員会について

関西地域とアフリカはこれまで経済、文化、教育等あらゆる分野で長きに渡り深い関係性を育んできました。なかでも、日本最大級のアフリカ文化交流イベントである「アフリカミーツ関西」は、機会に恵まれないアフリカの子どもたちに、より良い学習環境を提供するための「電気を届けるプロジェクト」を始めとする活動の周知と基金を集めるため、神戸を中心に10年以上に渡り毎年開催されてきた代表的なイベントです。お互いの国を知ることによって共感をもって交流出来るよう、音楽をはじめ、サプールファッションショーや、展示・販売ブースを展開し交流の場として今年も開催します。

■神戸情報大学院大学（KIC）について

2005年に設立。神戸電子専門学校を運営する「学校法人コンピュータ総合学園」が母体の専門職大学院です。日本政府奨学制度「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ」等を通してアフリカ32ヶ国から145名の留学生（JICA短期課題別研修を含むと35ヶ国から201名）が学んでおり、修了生は神戸、日本、アフリカ、及び世界各地で活躍しています。近年、「日本／世界銀行 共同大学院奨学金制度（JJ/WBGSP）」採択校（2020～2021年度）、独立行政法人 国際協力機構（JICA）理事長賞（2019）受賞他実績多数。